

## 世界最南端の町 ウスアイア

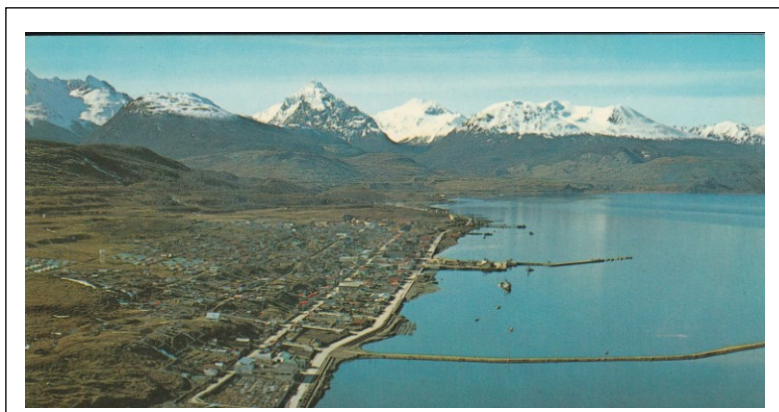
釜山を出発したバーチャル4万kmのウォーク。朝鮮半島を縦断し、中国丹東から北京、敦煌からシルクロードを通りローマへ、ユーラシア大陸最西端ポルトガルのロカ岬まで18,569km。アメリカ大陸に飛び、パンアメリカンハイウエーの起点、フェアバンクスから南米アルゼンチン、コモドロリバダビアを過ぎたところで4万kmに達した。当初の計算では南米最南端フエゴ島のウスワイアを過ぎ、アフリカへ渡らなければ4万kmに達しない予定であった。

ロカ岬はポルトガル観光の目玉であり旅行された方も多いと思うが、ウスワイアまで行った人は数少ないと思うので紹介します。本稿は1999年12月、石油開発情報センターの情報誌に寄稿した拙文を加筆したものです。



世界最南端の町、フエゴ島にあるウスワイアへ行くにはブエノスアイレスから3時間、先ずサンタクルス州都リオガジェイゴスに飛ぶ。リオガジェイゴスは石炭の積出港であり、パタゴニアの氷河観光の拠点でもある。ジェット機はここまでである。ここから今ではなかなか乗ることもないプロペラ機に乗り換える。もともとアルゼンチン空軍が辺境地への輸送を目的としていたが、座席に余裕があれば一般客も乗せてくれた。縞模様のプロペラ機で30分、フエゴ島のウスワイアの町に着く。南緯54度49分、定住者が作りあげた世界最南端の町である。(フエゴ島面積48千km<sup>2</sup>、九州よりやや小さい。ウスワイア人口は57千人である。現在はブエノスアイレスからウスワイア行き定期航空便がある。また世界一周クルーズも寄港する。

ティエラ・デル・フエゴとは火の地という意味である。1520年にマゼランが世界一周の際、必死で太平洋への出口を求めて海峡(のちマゼラン海峡と命名)を通ったとき、ある夜、おびただしい数の火が見えた。マゼランはこの地方の住民に見付けられて住民達がお互いに合図の狼煙をあげているのだらうと推測した。これは狼煙ではなく寒いこの島に住んでいたヤマナ族など先住民族が火を絶やさないため年中燃やし続けていたものであった。ヤマナ族は海洋民族でほとんど裸に近い状態で生活していたこと、そして蒙古斑をもっていたことが知られている。近年、フエゴ島で石油と天然ガスの採掘が行われ、その名のとおり火柱が昼夜を問わず天空を焦がす火の島となっている。



#### ウスワイアの町

さて、ビーグル海峡に望むウスワイアの町。アルゼンチンの中学の教科書によると、「フエゴ島・南極大陸・南大西洋諸島の直轄領」の首都である。アルゼンチンは南極に領土権を主張し、南極点を頂点として西経 25～74 度にわたる扇形地域を自国領としている。ウスワイアの町、かつては流刑の地であったが、現在の人口は約 56 千人、住民のほとんどは海軍基地か保税加工区で働く人、漁業関係者である。海軍基地がある理由は、ビーグル海峡の大西洋側の出口にある小さな二つの島を巡って、100 年来のチリとの領土紛争があり緊張状態にあったため軍隊を駐留させていた。過疎地対策としても始められた保税加工区には日本のTVの組立工場など進出していた。工場で働く人々の多くはチリからの出稼ぎである。チリ人はドイツ系が多くアルゼンチン人より真面目である。

ビーグル海峡を巡るチリとの紛争は 1985 年 3 月、チリに帰属することで解決し、パタゴニア地方でのチリとの間の天然ガス開発、観光開発などの協力計画が打ち出され、ウスワイアとブエノスアイレスとの間 3,200 km はガスパイプラインで結ばれている。

1983 年 1 月、真夏のウスワイア、平均気温は 13 度、最低気温は 5 度である。しかし町は山影にあるので西からの強風も遮られ寒く感じられない。だが白夜、夜 12 時を過ぎても明るい。100m 余りの目抜き通りの両側にレストラン、バー、免税店が並ぶ。軍人、漁船員、工員がお相手だ。生鮮食料品などすべてブエノスアイレスから空輸された

ものばかりである。おすすめは蟹である。茹でたての蟹にレモンをかけて食べるだけであるが、最近の情報によるとアルゼンチン人も三杯酢で食べるそうだ。日本人船員が教えたものらしい。



1983年1月の標識



現在の標識

世界最南端の標識はロカ岬のように断崖にある訳ではなくブエノスアイレスから3,218km とあるだけで、今、自分が世界最南端の町、地の果てに立っているのだ、と自分に言い聞かせないと特別な感慨はなかった。ネットによると現在の標識は、**fin del mundo**（世界の果て）とある。 八柳修之